

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成29年2月28日 NO.95 (395)



花ちゃん 「まあ！たくさんの貝^{かい}がいるわ。動^{うご}いているのは『ヤドカニ』でしょ？」

オー君 「ヤドカリ^{やどかり}（宿借）だよ。モンタ博士^{かながわけん}が神奈川県^{みうらかいがん}の三浦海岸^とで採^とってきてくれたんだ。たくさんいるね。」

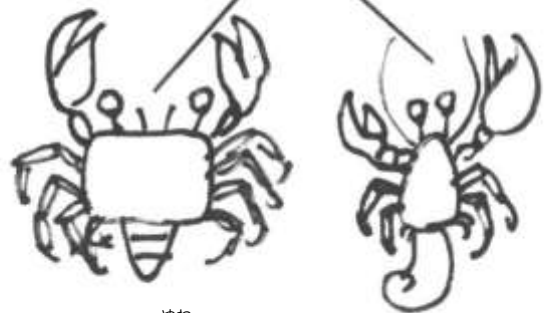
花ちゃん 「ヤドカリってカニやエビの仲間^{なかま}かしら？」

フッタ博士 「そうそう、甲殻類^{こうかくるい}というグループだけど、エビやカニとは少し^{すこ}ずつ^{ちが}違うんだ。

図^ずを見てごらん。触角^{しよっかく}（ひげ）
が目の外側^めにあるのがヤドカリ。」

触角^{しよっかく}と目の位置^{め いち}

オー君 「貝殻^{かいから}に入^{はい}っているおなか^おは
柔らか^{やわ}かいんだね。」



花ちゃん 「わざわざ重い貝殻^{おも}に入^{かいから}って歩き回^{はい}
るなんて、大変^{たいへん}じゃないのかしら。」

フッタ博士 「そうだね。身^みを守るために貝殻^{まも}に入り、おなか^{かいから}が柔らか^{はい}いままなのかも
しれないね。カニと同じようにプランクトンで幼生時代^{ようせいじだい}を過^すごし、脱皮^{だっぴ}

して成長するよ。」

オー君 「あれ？脱皮の時に貝殻はどうするんだろう？」

フッタ博士 「するどいね～！ヤドカリは死んだ空き貝殻を見つけて利用しているんだ。

自分の成長に合わせて大きな貝に住み替えるんだよ。」

花ちゃん 「そんなに都合よくぴったりの貝があるのかしら？」

フッタ博士 「またまたするどい！ヤドカリは歩きながらいつも次に住む貝殻の『物件探し』
をしているみたい。時には住んでいる別のヤドカリをけんかして追い出し、
乗っ取ることもあるそうだよ。」

オー君 「え～っ！それは大変そう…もっとのんびりした生き物かと思った。」

花ちゃん 「あら、図鑑には『繁殖期のオスはメスを奪われないように抱えて歩く』って
書いてあるわ。」

オー君 「自分の貝殻だけでも重いだろうに…男はつらいよ…。」

フッタ博士 「ヤドカリは敵に襲われると、貝殻の入り口を自分のはさみでぴったりふたを
する。サイズが合わないと、体かはみ出して食べられちゃう。だから、貝殻
不足はヤドカリの生死にかかわるんだね。しかたなくペットボトルのキャッ
プに入ったりすることもあるらしい。」

花ちゃん 「ふつう人は、ヤドカリを食べませんよね？」

フッタ博士 「う～ん、おいしいかどうか試したことはないけど。ヤドカリの親戚で食用に
する種類がいるよ。な～んだ？」

オー君・花ちゃん 「子供だから分かりませ～ん。」

フッタ博士 「どこかのテレビ番組みたいなせりふだね。正解は『タラバガニ』だよ。

見えている足の本数と、触角の生え方が違うんだ。モンタ博士のおみやげの
中にはほかにもいろいろな海の生き物がいるから、じっくり観察してごらん。
『カメノテ』はお味噌汁に入れる地方もあるよ。」

オー君 「あ～！ホントに亀の手みたいだ！」

花ちゃん 「フジツボなんかも甲殻類なんですね。不思議な姿をしているわあ～。」

フッタ博士 「♪海は広いな大きいな。まだまだ不思議がいっぱいあるよ。」